

目次

1 ウェブアクセシビリティの概要を理解しよう	3
ユニバーサルデザインとバリアフリー	3
ウェブアクセシビリティとは	3
視覚障害者から見たウェブサイトとは	3
ウェブアクセシビリティの対応策の一例	4
まとめ	6
2 必要なスキルと学習方法	7
HTML の知識	7
CSS の知識	7
ウェブアクセシビリティ検査技術者検定の取得	7
3 ウェブアクセシビリティの規格について理解しよう	8
WCAG 2.0	8
JIS X8341-3:2016	9

1 ウェブアクセシビリティの概要を理解しよう

ユニバーサルデザインとバリアフリー

いろいろな立場の人（大人，子供，高齢者，障害者など）が，同じ情報やサービスを受けられることを目指したユニバーサルデザインの取組みが一般的になりました。

生活する中で障害（バリア）となるものを取り除き，自由な社会生活を営むことを目的としたバリアフリーの実践も進んでいます。

ウェブアクセシビリティとは

しかし，インターネット上では，いろいろな立場の人（大人，子供，高齢者，障害者など）が，すべての情報を共有できる環境整備が進んでいないのが現状です。

誰もが利用できるウェブサイト作りの考え方として，「ウェブアクセシビリティ」が提唱されました。

すべての人が情報を共有できるようにするために，

- ① すべての情報を読み取れるようにする
 - ② どのような環境でも，同じ情報を取得できるようにする
- の2点を解消することがウェブアクセシビリティの基本です。

視覚障害者から見たウェブサイトとは

重度の視覚障害者は画像や映像等から情報を取得できないので，文字（テキスト）情報だけを頼りに，情報を取得しています。

具体的には，ウェブサイトの内容を読み取るための道具（音声読み上げブラウザなど）を使って，視覚障害者でも文字（テキスト）から情報を手に入れることができます。

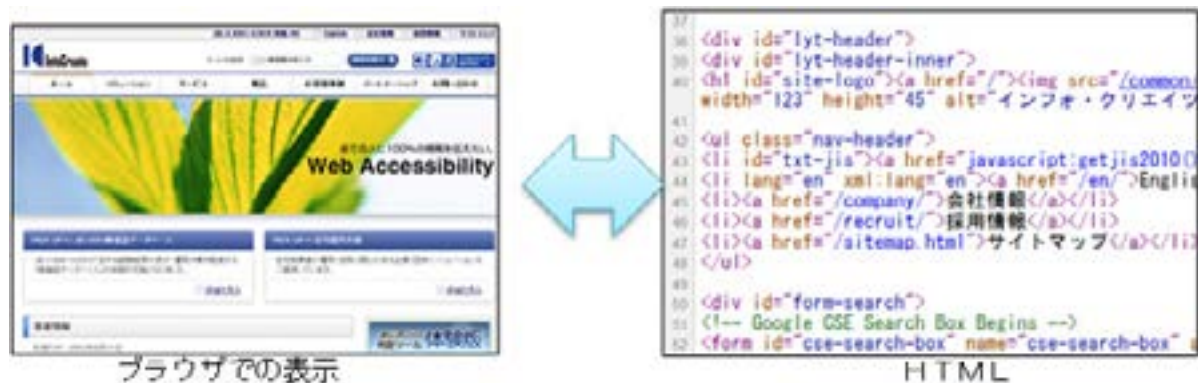


ウェブアクセシビリティの対応策の一例

ウェブアクセシビリティの対応策の一部を紹介します。

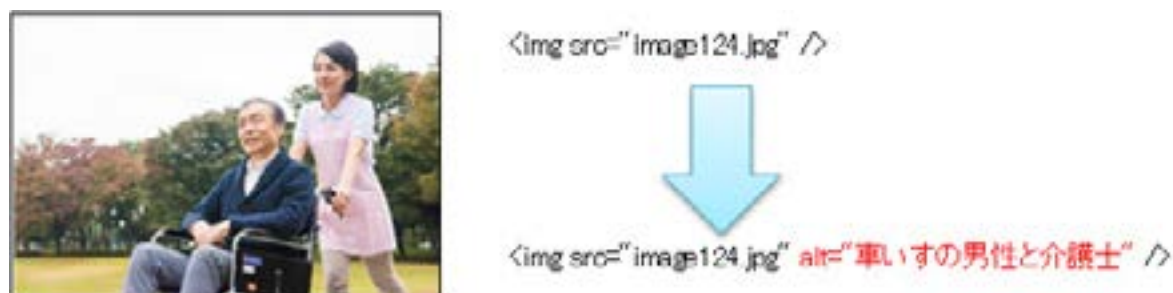
① 正しい文法でページを作る

ウェブサイト作成ソフト任せにせず、ウェブサイトの内容を、正しい文法のHTMLで記述します。



② 代替テキストの埋め込み

画像や音声データには、必ず、同じ情報を取得するための代替テキストを用意します。



③ 文字の大きさを変える

文字の大きさ（フォントサイズ）を、その人にあった大きさに変更できる機能を実装します。



④ 背景の色を変える

背景の色を、その人にあった色に変更できる機能を実装します。



視力の弱い方向けの配色に変更

⑤ 色の濃淡（コントラスト比）に配慮する

弱視の人のために、背景に文字の色が溶け込んでいないかを識別します。



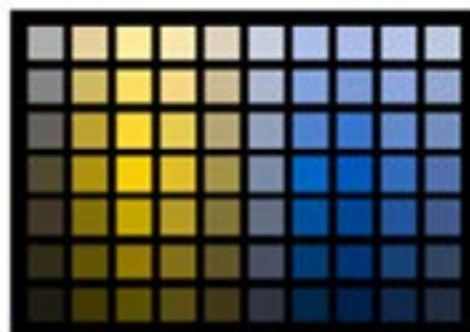
同じような色で濃淡の差がない
(文字が読みづらい)

⑥ 色の配色に配慮する

赤と緑が同じ色に見える色覚障害の人のために、色だけで情報を判別するような構造を避ける。



一般的な見え方



障害がある場合の見え方

まとめ

ウェブアクセシビリティは、「段差があればスロープを付ける」のと同じように、「問題」を認識し「工夫」や「別の手段」を用意して「問題」を解消する取り組みだといえます。

また、ウェブアクセシビリティを満たすためのルール（規格）が定められています。

交通ルールを守り運転することで、交通事故の防止につながるのと同じように、ウェブアクセシビリティのルール（規格）を守り作られた安全・安心なWebサイトになっているかどうかを調べるのがウェブアクセシビリティの仕事なのです。

2 必要なスキルと学習方法

ウェブアクセシビリティの検査業務に必要なスキルは下記のとおりです。

HTML の知識

CSS の知識

ウェブアクセシビリティ検査技術者検定の取得

HTML の知識

ウェブアクセシビリティの検査では、Web ページを作る言語である「HTML」の知識が少々必要です。

しかし、HTML のみで Web ページを構築できるだけの高水準なスキルまでは、求めません。

JVS の「ウェブコンテンツ制作」コース -> 基礎知識 -> HTML 入門の単元の実習を行っておきましょう。

<http://el.tokushima-twc.net/moodle/course/view.php?id=8>

CSS の知識

ウェブアクセシビリティの検査では、Web ページの装飾やレイアウトを操る「CSS」の知識も少々必要です。

しかし、CSS に精通する必要はなく、よく使うスタイルに関する命令をざっくりと知っておけば問題ありません。

JVS の「ウェブコンテンツ制作」コース -> 基礎実習 「基礎実習 序章」～「基礎実習 その2」の単元の実習を行っておきましょう。

<http://el.tokushima-twc.net/moodle/course/view.php?id=8>

ウェブアクセシビリティ検査技術者検定の取得

レベル1・レベル2・レベル3まであり、最低限でもレベル1の取得が必須となります。

検定試験は、株式会社インフォ・クリエイツが運営するeラーニングサイト「ICC」でオンラインで受験（自宅で受験）できます。

<https://icc.infocreate.co.jp/moodle/>

検定試験の受け付けは、JCI事務局が受け付けているので、希望者はお申付けください。

（JCI事務局 jcinoko@gray.plala.or.jp または led.centipede@gmail.com）

3 ウェブアクセシビリティの規格について理解しよう

WCAG 2.0

Web Contents Accessibility Guideline 2.0(ウェブ・コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン 第2版)の略称です。Web技術の世界標準を作っている「W3C」という団体が勧告しているウェブアクセシビリティの国際基準です。

文書構成

WCAG 2.0はWebページの形で文書化されており、誰でも自由に閲覧できます。原文は英語ですが、「ウェブアクセシビリティ基盤整備委員会」という団体のウェブサイト <http://waic.jp/> から、日本語版の文書を参照することができます。

この文書は、次のような構成(目次)になっています。

WCAG 2.0 ガイドライン

WCAG 2.0 ガイダンスのレイヤー

WCAG 2.0 関連文書

WCAG 2.0 における重要な用語

WCAG 2.0 ガイドライン

1 知覚可能

2 操作可能

3 理解可能

4 堅牢性

適合性

適合要件

適合宣言(任意)

部分適合に関する記述 — 第三者によるコンテンツ

部分適合に関する記述 — 言語

4つの原則

WCAG 2.0の目次「WCAG 2.0 ガイドライン」で示された「知覚可能」「操作可能」「理解可能」「堅牢性」はウェブアクセシビリティの「4つの原則」と呼ばれ、検査をする上でも大切な考え方となるので、是非とも覚えておきましょう。

WCAG 2.0 関連文章

WCAG 2.0は、ガイドラインなので、ウェブアクセシビリティへの具体的な対応方法までは説明されていません。そこで次の2つの文書がWCAG 2.0と併せて公開されており、これを参考にするものとされています。やはりこれも原文は英語ですが、<http://waic.jp/> から、日本語版の文書を参照することができます。実務では、「WCAG 2.0 実装方法集」を特に使います。

1. WCAG 2.0 解説書

2. WCAG 2.0 実装方法集

JIS X8341-3:2016

ウェブアクセシビリティに関する JIS 規格（日本工業規格）の「規格番号」です。2004 年に公開、2010 年に 1 次改訂、2016 年に 2 次改訂されました。

この標記が文中に出てきた場合は、アクセシビリティ JIS 規格のことを指しているのだと理解してください。

文書構成

JIS 規格は文書化されており、原文は <http://www.jisc.go.jp/app/JPS/JPSO0020.html> で参照できます。この文書は、次のような構成（目次）になっています。

「1.」～「5.」までの項目は「箇条 1～箇条 5」といった呼び方をしますので覚えておきましょう。

実務に関係するのは、「箇条 1～4」の内容です。

1. 知覚可能の原則
2. 操作可能の原則
3. 理解可能の原則
4. 堅ろう（牢）（Robust）の原則
5. 適合

※ 2010 改訂版では、箇条 1～箇条 8 で、検査に関係するのは箇条 7 のみでした。

WCAG 2.0 との関係

JIS X8341-3:2016 は、WCAG 2.0 の原文をそのまま JIS 規格として再編集したものであり、内容はほぼ同じです。

JIS X8341-3:2016 も、ウェブアクセシビリティを達成するため具体的な対応方法までは書いていません。冒頭で説明したとおり、JIS X8341-3:2016 と WCAG 2.0 は、内容が同じなので、WCAG 2.0 の関連文書を JIS 規格の達成に利用することができるのです。

適合レベル

JIS X8341-3:2016「箇条 5」で定義された、アクセシビリティの達成度合いを「A」「AA」「AAA」の 3 つのレベルで表わしたものです。

A の数が多いほど、このあと説明する達成基準の数が増え、難易度が上がってきます。

実務では、等級「A」と等級「AA」で検査することになります。